

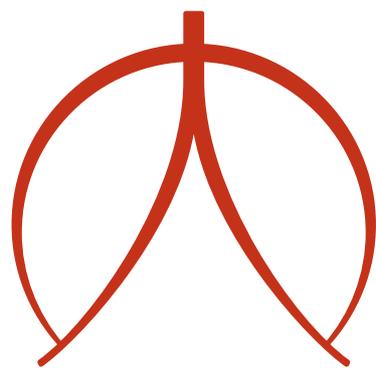
大谷大学広報

編集 大谷大学広報編集委員会

No.181

2009年11月10日

2009 秋



絶景かな、絶景かな！

学問のしおり

現実を超える言葉
加藤 文雄

国際交流トピックス

2009大谷大学紫明祭

谷大エリア散策

喫茶 ロアール

SQUARE

起こってはならないはずの
冤罪事件
脇中 洋

冬扇

わたしが「喪失」「喪失の体験」を研究テーマとしてから、ながい時間が流れた。研究テーマを聞かれると、つい躊躇してしまうことがある。それは、きっと「喪失」は、「うしなう」ことであり、一般的にはあまり歓迎されることではないからであろう。

自伝と年譜、書簡などを調べると、人生に刻まれた「喪失」には意味や役割があるようにおもう。ひとの人生に痕跡を残すほどの

「喪失」は、遭遇した「以前と以降」とではあきらかに「何か」が違う。そこには、たしか「気づき」の世界がある。その足跡は、書簡や文芸作品として、また、社会的な貢献事業として残されている。その原動力となったのは、目には見えない「いのち」の「発見」であり、「気づき」である。ことばにすれば「失って見える世界」であり、もう一步踏み込めば「失わなければ見えない世界」である。

「喪失」は、避けて通ることのできない不思議な遭遇であることも事実である。人生に設えられた大切な役割があるようにおもう。「喪失」に遭遇して大切なことに「気づく」ことができれば、「無駄なもの、なにもない」がみごとに証明される。そして、「喪失の体験」が「闇」から、「ともしび」へと転回する「ものがたり」はドラマチックとしかいいようがない。
(佐賀枝夏文)

絶景かな、絶景かな！

最近ではデジカメやカメラ付き携帯電話が普及したこともあって、以前に比べて「写真」というものがより身近になってきたのではないのでしょうか。ここに残る景色や場面を記録し残しておきやすくなりました。すると今度は、これまで以上に風景を意識するようになったりもします。

そこで今回は、4名の方にこの夏などに会った「絶景」を、写真（フルカラー！）とともにご紹介していただきました。この機会に、みなさまそれぞれのところにある「絶景」も思い出してみたいはいかが？



「沖縄の離島を訪ねて…」

村山 寛美

「絶景」という言葉を聞いて、皆さんはどのような景色を思い浮かべるだろうか。「海」や「山」、「空」に「川」など、様々なものがあるだろう。その中でも私は、「海」と「空」をまず思い浮かべる。海の美しい青に、空の青が交わる景色は、まさに「絶景」だと私は思うからだ。

この夏、私は「青の絶景」を探すべく、沖縄県の離島である波照間島・与那国島を訪ねた。波照間島は北緯24度2分25秒、東経123度47分16秒に位置する日本最南端



日本最南端の岬

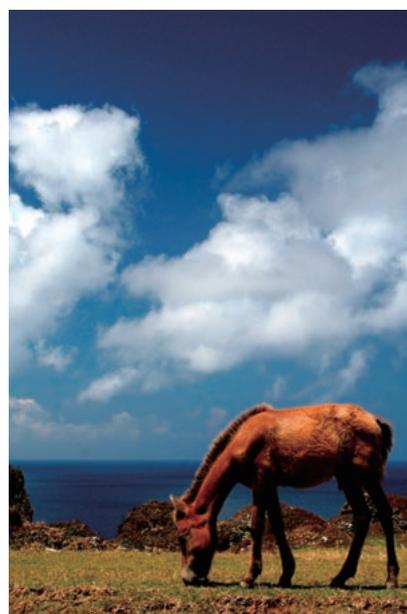
の有人島であり、島の大半がさとうきび畑という穏やかな島だ。与那国島は北緯24度28分6秒東経123度0分17秒に位置する日本最西端の有人島であり、ドラマ「Dr. コトー診療所」のロケ地としても知られている。

波照間島では、「日本最南端の碑」を訪れた。ごつごつとした岩場を歩いていくと、目の前に広がるのは青い海と空！透明度の高い海が太陽の光を受けてきらめき、青い空が夏の雲を抱いて広がってゆく景色は本当に美しかった。

与那国島では、「日本最西端之地碑」と、「東崎」を訪れた。ここでは、日本在来種であり、天然記念物に指定されている与那国馬が放し飼いにされており、草を食むその姿はとても可愛らしい。ま



東崎



与那国馬

た、船の上から見た「東崎」は、その岩肌に海と空の青が相まって、何とも言えない美しさだった。

離島で出会った「絶景」は自分の写真では表現できないほど美しく、その時の感動は今でも心に残っている。また、このような「絶景」を探しに旅に出たいものだ。

（むらやま ひろみ）
史学科 第3学年



おすすめ! 大自然絶景 1・2・3

井上 摩紀



いつもはシティ派の私であるが、今回は極々たまに出かける旅行の中でも特に大自然を感じられる絶景を3つ選んだ。

1枚目はアラスカ。夏も絶景天国だが、冬のオーロラは特に日本人に好まれる。撮影場所はフェアバンクス近郊のスキー場。「日本にはオーロラを見たら幸せになれるという言い伝えがあるのか?」と聞かれるほど、マイナス30度の中、日本人だけが大挙して観測に訪れていた。

2枚目はネパールにあるゴークョ・ピーク(5360メートル)での私(フォトグラファーのぼちさん撮影)。ここはカラ・パタールと並んでエベレスト展望台と呼ばれるところで、世界の屋根ヒマラヤ山脈が見渡せる絶景ポイントである。が、

残念ながらエベレストは雲の中であった。同行させていたエベレスト登頂隊の成功を願い、「祈」という舞踊作品を山頂で踊った。エベレストのベースキャンプでも踊り、たまにはダンサーらしいこともしているという



撮影 ポチ



右上にキリンが3匹…見えるかな

CONTENTS

- p. 2…絶景かな、絶景かな!
- p. 6…CAMPUS☆TOPICS
- p.18…学問のしおり
- p.19…国際交流トピックス
- p.23…2009年度大谷大学紫明祭
- p.25…Keiji☆Ban
- p.29…課外活動イベント情報
- p.30…学生相談室から
- p.31…谷大エリア散策
- p.32…研究室だより
- p.33…学会だより
- p.34…出版物紹介
- p.35…大谷中学校・高等学校九州大谷短期大学からのお知らせ
- p.36…SQUARE

表紙のことば

「いらっしゃいませ!」

谷大の一大イベント、紫明祭。今日はみんな、一致団結して祭を盛り上げます。

ベビーカステラの味がノーマル・ジャム・チョコと選べるように、屋台をめぐるもよし、ライブイベントに参加するもよし紫明祭の楽しみ方は人それぞれ。

選んだカステラに笑顔をそえて、

あなたも

「おひとついかがですか?」

冬扇

詳しくは「夏炉冬扇」という。夏の炉や冬の扇のように役にたつたぬことの意味に用いる。ここでは役にたつたない次元をこえて一筋の道に生きる精神をあらわす。

2009年11月10日発行
 発行 大谷大学企画課
 編集 大谷大学広報編集委員会
 〒603-8143
 京都市北区小山上総町 大谷大学企画課内
 電話 (075) 411-8115
 FAX (075) 411-8149
 URL <http://www.otani.ac.jp/>

1枚である。

最後はケニアのアンボセリ国立公園。キリマンジャロ登頂のおまけに行ったサファリで撮影。動物好きにはたまらない地平線まで何

頭もの動物たちが連なる豪華絶景である。キリン、シマウマ、ヌー、ガゼルといるのだが、前頁の掲載写真ではみんな蟻のように見えているかも。よければ目を凝らして

どの動物か探してみしてほしい。

(いのうえ まき)
准教授 体育学)



「百聞は一見にしかず」

岡崎 要

「山形領に立石寺と^{いひ}山寺あり。慈覚大師の開基にて、殊清閑の地^{なり}也。・・・中略・・・岸をめぐり岩を^{はび}這て仏閣を拝し、佳景寂寞として心すみ行くのみおぼゆ。

閑さや岩にしみ入る蟬の声」(奥の細道 松尾芭蕉)

芭蕉が、山寺(宝珠山阿所川院立石寺)に行ったのは、旧暦5月末(今の7月中旬)。晴天だったという。

立石寺という寺名は、学生時代にクラブ活動で東海道サイクリングをしたおり、いつかは東北道にも行きたいと思いつつ地図と時刻表で奥の細道の行程を眺め、松島や平泉といったルートから1つだけ離れ行きにくいという遠い記憶に残っていた所である。

その後、幾度か東北を旅したが一度も行く機会がなかった。今回、山寺を目指しての旅は、仙台から山形道経由で約2時間。蟬の声の季節ではなく早雪の中ではあった

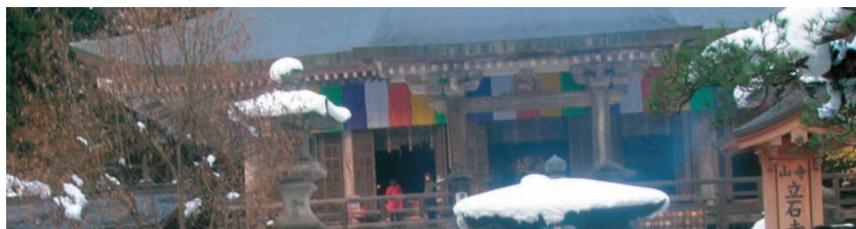
が、「岸をめぐり岩を^{はび}這て仏閣を拝し」は同じ風景を味わった。

TVやDVD・インターネット等を通して居ながらに世界を旅行できる(目で見、声や音を聞き、場合によっては食する)時代である。しかしながら、その所における匂い、岩を這う感触や漸く来ることができたという思い、それにもまましていつもと違ったワクワク感が、こころに感動を残す景色であり旅の醍醐味ではないか。人生のある時間を割いて思い出に残る絶景を堪能しよう。

(おかざき かなめ)
キャリアセンター 職員)



芭蕉像の横にある句碑



根本中堂



「大雪溪への3人旅」

太田 智子

今年もまた白馬へ。学生時代から同じ民宿、ルートもほとんど同じなのに、何度訪れても魅力は尽

きない。

写真①は、猿倉から白馬尻を通って白馬岳へ向かう、大雪溪の入

り口に到着した時のものだ。今年は、この辺りの雪溪の幅が狭くなっていて驚いた。(写真左下に見



写真①

える山肌は、昨年の夏は雪溪の中だった) 雪溪を歩く時は、道標(写真②の雪溪中央に見えるひとすじの朱い線…粉のようなものがまいてある)を頼りに、踏み固められた氷の上をザック、ザックと登って行く。ひんやりとして、少しの風でも吹いてくると冷蔵庫の中にいるようだ。今回は、母・子ども・私の3人旅のため、雪溪を少



写真②

し登ったところで下山したが、延々と続くこの道をさらに進むと、高山植物のお花畑があり、頂上は2932メートル。雪溪で怖いのは、にわか霧が立ちこめ、あっという間に1メートル先でさえ見えなくなってしまうことである。

他のルートでよく行くのは、八方尾根を唐松岳へ向かうものである。こちらは尾根づたいに歩くので、遠くを登って行く人の列が点々と見え、小さい子どもが描く山登りの絵のようでおもしろい。また、山上からの眺めはまさに絶景である。晴れた日には北アルプスの山々が青墨の美しいグラデーションを描いている。第3ケルン付近には八方池があり、ここで休憩。子ども連れの時は、ここからUターンである。

山で出会う人たちの会話は「どちらから来られました?」「^{より}鐘からです」「私は^{つがいけ}梅池から…これから五竜へ」「お気をつけて」といった感じである。民宿へ帰ると、夕食後はきまって宿のご主人を囲んでの楽しいひととき。今日一日の発見やハプニングなど、銘々が

語り合う。雷や雲の話、落石の注意なども。ひとつひとつが勉強になる。

「来年もまた来られますやろか?」と母。「こんどはぜったい、おはなばたけまでいくもん!」と子ども。ぜひ、来年の夏も3人で行けますように。それまで、近所の八十八カ所(御室)で鍛えておこう。

(おおた ともこ)
講師 日本画



谷間を縫うように雪溪が続く



あちらこちらには落石が…注意・注意

人事

退職

依願退職

[事務系嘱託]

近藤 聡子 (学生支援部)

2009年9月10日付

照屋さく代 (教育研究支援部)

2009年9月30日付

新規採用

[事務系嘱託]

別所めぐみ

(教育研究支援部)

2009年10月1日付



本学学生 大学生落語選手権で大健闘！

9月23日(水)、本学の落語研究会に所属する清水洋一郎さん(芸名：賀茂乃歩翻巻 史学科第3学年)が、「第一回全日本大学生落語選手権」の決勝戦に出場し第三位敢闘賞を受賞しました。

「第一回全日本大学生落語選手権」は全日本学生落語協会主催の大会で、協会は落語を通じた青少年の育成などを目指して活動している団体です。今回はさらなる学生落語界の発展を目指し、全国の大学生を対象にした選手権大会が開催されました。

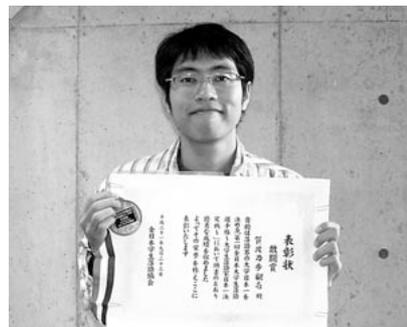
清水さんは8月15日(土)に行われた西日本予選を突破し、9月23日(水)の東京において行われた準決勝

戦に出場されました。準決勝戦では総勢12名の学生の落語家たちが雌雄を決し、清水さんはファイナリストの3名に選ばれましたが、今回は辛くも優勝を逃し第三位敢闘賞の受賞となりました。

今回選手権に出場された清水さんは「夏休みは合間を見つけてはデイサービスなどで場数を踏むため落語をさせてもらいました。『場数が力です。その分だけ上手くなる』これはある先輩が大会の1ヶ月前に言ってくれた言葉ですが、この言葉があったからこそ今回の第三位敢闘賞が取れたと思います。2月の策伝大会で次こそ雪辱を果たしたいと思います。最後に、こ

の夏は落語を通して様々な方に励ましの声をかけていただきました。この場を借りてお礼を申しあげたいと思います。本当にありがとうございました。」と語ってくれました。

(企画課)



賞状とメダルを手に

卒業生 高堂祐真さん「文部科学大臣優秀教員賞」を受賞

1977年度本学文学部真宗学科を卒業された高堂祐真さんが、平成20年度の文部科学大臣優秀教員賞を受賞されました。現在、滋賀県立河南中学校で国語科教諭を勤めておられる高堂さんは、小中高国語科研究会の中心メンバーとして活動してこられ、雑誌への授業実践の発表及び研究論文の発表なども精力的に行なわれてきました。

今回はその優れた成果が認められ、受賞となりました。

過日、本学へ受賞報告にお越しになられた際、学生時代の恩師である木村学長と歓談され、学長からは「荣誉ある賞の受賞を喜ぶとともに、益々の活躍と後輩にあたる本学学生への指導も期待している。」とのお言葉が述べられました。

(企画課)



高堂祐真氏

留学生文化交流会開催

6月20日(土)、2009年度第1回目の留学生文化交流会を開催し、外国人留学生11名を含む29名の学生が参加しました。今回、午前中は福永念珠舗様のご協力を得て念珠を製作し、昼食後に渉成園(枳殻邸)散策、最後に真宗本廟(東本願寺)を参拝しました。

はじめに、東本願寺の飛地境内地である枳殻邸を会場に、福永念珠舗社長・福永荘三さん(本学文学部真宗学科卒業)より、念珠の起源や宗派別の念珠の形状・使いかたの特徴などのお話を聞かせていただきました。そのあと、福永念珠舗スタッフのみなさんのご指

導のもと、各自が念珠を製作しました。「おや玉」・「ボサ玉」に紐を通す作業や、最後に紐を組みあげて結ぶところなどに苦心しましたが、参加者同士互いに協力し、和気あいあいとした中で完成にたどりつきました。なお念珠の玉は、御影堂御修復工事の際に出た木材で、約100年の間、御影堂の屋根を支えてきた部分を再利用したものです。福永念珠舗様ならびに東本願寺のご厚意により、留学生文化交流会に利用させていただきました。

昼食後、枳殻邸内を散策しながら、参加者同士、交流を深めまし

た。その後東本願寺に移動し、各自が製作した念珠を持って阿弥陀堂を参拝しました。真宗大谷派教育部の方による解説を聞きながら、修復された御影堂内部や諸殿を見学し、有意義な一日となりました。(学生支援課)



枳殻邸 閻風亭前にて

新任教員向けFD研修会が実施されました

本学では2007年度に教務委員会FD部会を設置し、積極的にFDへの取り組みを行っております。新任教員向けFDとしては、昨年度から「学長・FD部会委員との懇話会」を実施しています。2回目になる今年度は、6月24日(水)に、第1部「新任教員を対象とした人権問題学習会」、第2部「学長・FD部会委員と新任専任教員との懇話

会」を開催しました。第1部では、谷眞理人権センター長より本学がどのような姿勢で人権問題学習に取り組んでいるかについての話を、第2部では、木村宣彰学長より「建学の理念とFD」についての話を聴きました。そのあと、FD部会委員と教務課職員も交えて、授業を実施するにあたり、日頃の疑問点や困っていることなどを和やか

な雰囲気の中で懇談し、大変有意義な研修会となりました。

(教務課)



大谷幼稚園探検隊が本学を訪問

6月26日(金)、大谷幼稚園の年長児77名が本学を訪れました。この「大谷探検隊」は1994年から、幼児教育保育科と幼稚園の交流の一貫として行われているものです。

今年は図書館の方々にご協力いただき、初めて図書館の探検に行くことができました。大学の図書館には本がいっぱいです。みんな目をキラキラさせて、いろいろな本を手にとってみました。そしてメディアホールでは、大きなスクリーンに自分たちの姿を映して遊びました。午前中は、大学ならで

はの施設を利用して様々な体験をしました。

お弁当を食べたあと、26日は親鸞聖人の御命日勤行の日だったので、大学の講堂に行きました。ここでは園児たち、そして幼児教育保育科のお姉さん・お兄さんたちもお歌を歌って、お勤めをしました。そして東本願寺からいただいた、かわいい腕輪念珠などのお土産を渡され、さっそく腕につけていました。

お勤めが終わったら、いろいろなところへ探検に出かけました。

保育実習室では紙芝居を真剣に見たり、音楽実習室では、みんなで踊ったり楽器を使ったり、とても楽しそうに遊んでいました。また情報処理教室では、パソコンを使ったお絵かきや図形遊びを楽しみ



ました。そして多目的ホールは、楽しいゲームコーナーに早変わり。みんな夢中になって遊びました。子どもたちのキラキラ輝く瞳に

ふれ、学生にとっても充実した1日になりました。
(幼児教育保育科)

課外教育行事「津村記久子さん講演会&トークセッション」開催

7月8日(水)、本学講堂において、第140回芥川賞を受賞した作家の津村記久子さんをお迎えして、2009年度課外教育行事特別企画「津村記久子さん講演会&トークセッション」が開催されました。

津村さんは、本学国際文化学科の卒業生(2000年度)です。卒業後、会社に就職した津村さんは25歳になって学生時代に書いた小説を月刊誌に投稿したのをきっかけに作家活動に入られました。その後、2005年『マンイーター』で第21回太宰治賞、2008年には『ミュ

ージック・ブレス・ユー!!』で第30回野間文芸新人賞、そして、2009年1月には、『ポトスライムの舟』で芥川賞を受賞されました。

卒業後初めて、9年ぶりに母校を訪れた津村さんは、大学時代の思い出や子どもの頃の創作の様子や、どのように芥川賞受賞作品『ポトスライムの舟』が生み出されたのかなどを語っていただきました。子どもの頃から、与えられた児童書を書き写して遊んでいたという津村さん。軽やかな文体にも、幼い頃からの積み重ねや、緻

密な構想が背景にあることを知り、300名ほど集まった聴衆もたいへん興味深く話に聞き入っていました。

(学生支援課)



津村記久子氏

宗教学会「大拙忌記念公開講演会」を開催

7月9日(木)、大谷大学宗教学会主催の第28回大拙忌記念公開講演会が響流館メディアホールにおいて開催されました。この講演会は、1966年7月12日に95才で亡くなられた、世界的宗教学者であり本学の名誉教授であった鈴木大拙先生の業績を顕彰する目的で始まりました。今回は鳥取大学医学部准教授の安藤泰至先生を迎え、「私たちは生と死を取り戻せるのか?—医療化社会における死生学—」と題された講演をいただきました。近代以降、医学は「自然科学」

としての側面が強調され、人ではなくデータを見る傾向があること、その一方で宗教自体は人間の生死そのものから遠ざかり内面化していったこと、これらのことが医療と宗教の乖離につながっていると先生は指摘されました。そして、いのちの問題に対して先端医療が唯一の究極的な解決策とはなりえないことを認めるところから新しい「死生学」がスタートするのであり、宗教のみならず医療もまたいのちをどう語りいのちとどう向き合うのかという根本にもどる必

要がある、と講演を結ばれました。

この講演記録は、来年春に刊行予定の『宗教学会報』に掲載されます。

(宗教学会)



安藤泰至鳥取大学准教授

教育・心理学科開設記念シンポジウムを開催

7月18日(土)、本学講堂を会場に朝日新聞社広告局との共催による教育・心理学科開設記念シンポジウム「子どもと築く豊かな関係～未来を創るきずなの力～」を開催し、約400名の方々にご参加いただきました。

当日の基調講演では、NHKの「できるかな」に「ノッポさん」として出演されていました高見のっぽ氏を講師に「ノッポさんの小さい人とのつきあい方」というテーマでご自身の子どもの頃の体験をもとに、子どもが大人をどのよう



高見のっぽ氏

に見ているのか、そして子どもたちに敬意を払う必要性についてご講演いただきました。

その後のパネルディスカッションでは、朝日新聞社の上島誠司氏をコーディネーターに、高見のつぼ氏、京都市教育委員会の河村広子氏、本学教育・心理学科から脇中洋教授をパネリストとして迎え、

子どもたちとの豊かな関係作りについて話し合いがなされ、会場からも活発な質問がだされていました。

当日のシンポジウムの様子は、8月22日(土)の朝日新聞朝刊において採録記事として掲載されました。
(入学センター)



シンポジウムの様子

石間奨学金が贈られる

7月17日(金)に、「石間奨学金奨学生証書授与式」が尋源講堂にて執り行われ、奨学生3名に証書と記念品が贈られました。

2年前から始まった石間奨学金は、石間裕氏からの寄付金を財源としており、大谷大学・大谷大学短期大学部での学びに強い意欲を持ちながらも、学費の支弁が困難な最終学年の学生に対して給付されるものです。証書授与式終了後には、懇談会が行われ和やかな雰

囲気のなか意見交換がされました。創設者である石間氏は奨学生に向けて、卒業後の進路等にも触れられ「最初は、つらくて嫌な思いもすることと思う。最初ハッピーな人間こそ危ない。人生はおもしろい。自分の信念をもち、自分で評価できる人生を目指していただきたい」という温かい励ましと、「誰かひとりの人でも良いから、困っている方を助けてくださることを願っています」と卒業に向けての

はなむけの言葉をかけられました。
(学生支援課)



石間氏を囲んでの記念撮影

「暁天講座」を開講

7月22日(水)～24日(金)に本年度の「暁天講座」が開講されました。例年、東本願寺の学事行事である安居が本学で行われている間に、その安居の講師をお招きして開催しています。

早朝の6時30分からの講座でしたが、近隣住民の方をはじめ多くの市民の方々にお越しいただきました。各日、毎年欠かさずに参加されている方など250名を超える聴講者がありました。

22日(水)は本学の一色順心教授に

「無窮の道を歩む」、23日(木)は同朋大学の田代俊孝教授に「韋提希夫人の生と死 一無生忍を得る」、24日(金)は福島光哉本学名誉教授に「他の方便さらになし」という講題でお話しいただきました。講座



田代俊孝同朋大学教授

終了後には、学内食堂にて朝粥の接待が行われ、1日のスタートを気持ちよく過ごしていただきました。

(総務課)



福島光哉名誉教授

高校生「インターンシップ」を受け入れ

7月27日(月)・28日(火)、私立京都両洋高等学校2年生の坂井翔さんがインターンシップのために本学を訪れました。昨年度は図書・博物館課でのインターンシップに参

加された坂井さんですが(『大谷大学広報08秋号』掲載)、今年度は企画課での仕事を体験されました。

坂井さんには『大谷大学広報09

秋号』の表紙写真の選定や、7月22日(水)～24日(金)に行われた暁天講座のホームページ用の記事作成、「谷大エリア散策」の写真撮影(写真は31頁に掲載)など、主に大学

の広報活動に関わる仕事に取り組んでいただきました。

今回の体験に参加した坂井さんは、「1日目の写真を選ぶ作業は大量の写真の中から選び出さないといけないので大変でした。2日目のホームページに掲載する記事を作成するときに、敬語を正しく

使うのは難しい、と思いました。このインターンシップで最も難しいと思ったことはインターンシップの報告書作成です。読む人の事をよく考えて作成しなければならぬからです。」と感想を述べてくれました。

(企画課)



打ち合わせ中

京都市立陶化中学校リーダー講習会を開催

8月6日(木)、本学におきまして京都市立陶化中学校のリーダー講習会を開催いたしました。

陶化中学校のリーダー講習会は、生徒会活動の中心となる生徒集団の確立を目指し、リーダーとしての意識と技能を高めることと、次代に続く1、2年生のリーダーを育てることを目的に昨年より開催されており、今年度は教職支援センターを通じて本学に依頼がありました。

当日は、生徒会を中心に1～3年生の生徒39名の参加がありました。講習会の午前中には、井上摩紀准教授による生徒間の緊張をときほぐすことを目的とした身体表現の授業に続いて、新入生歓迎実行委員会委員長の稲岡智子さん(真宗学科第3学年)、同ステージ担当の森澤亜都実さん(真宗学科第3学年)による有志団体におけ

るリーダーの役割や、博物館実習生展を代表して山本春菜さん(史学科第4学年)が、授業での取り組みにおける班長のあり方について報告を行いました。

午後からは、12名の学生ボランティアスタッフの協力により、キャンパス見学と、「何をもって大人というのか?」をテーマに5班に分かれてのグループワークと発表会を行いました。

当日、中学生を前に発表を行なった山本春菜さんは「自分たちの活動は学生主体で作上げるものと説明しながら、実際はどうだっ

たのかと改めて振り返る機会となりました。」と感想を述べられました。また、グループワークに協力いただいた打越和彦さん(社会学科第4学年)は「中学生との見解の違いには非常に驚かされましたが、違った世代との接触は双方にとって新しい“何か”が根付き芽生える良い機会となりました。このような機会が増えることを願いつつ、大谷大学生としての見識を広めていこうという思いを持ちました。」と述べられました。

(入学センター)



山本さんによる報告の様子



グループワーク発表の様子

アメリカ民謡研究部が「鴨川納涼」に参加

8月9日(日)、鴨川の三条大橋から四条大橋西岸河川敷で開催されました「第40回鴨川納涼」に本学のアメリカ民謡研究部が参加し祭りを盛り上げました。

「鴨川納涼」は鴨川を美しくする会の主催のもと、文化、作法、技術等を体験し青少年の自主性や教養性の向上と河川美化、環境保全等の大切さの理解を深めてもらうことを目的に開催されています。

今回出演されたのは、どちらも

4名のメンバーで構成されている「クーゲルシュライバー」と「モロコシsuppe」の2組です。

今回の出演について、「モロコ

シsuppe」のメンバー深尾繭加さん(文学科第2学年)は「初めての野外ステージと、アメリカ民謡(ブルース)をあまり知らな



「クーゲルシュライバー」の演奏



「モロコシsuppe」の演奏

い方たちの前で演奏ということ
で緊張と不安でいっぱいでしたが、
ステージに上がってみると、みな
さんいっしょにリズムをとってく
ださったり、笑顔で聴いてくださ
ったので、いつのまにか緊張もな
くなり楽しく演奏することができ
ました。納涼祭で私達の活動すべ

てをお見せできなかったことが悔
やまれますが、とても貴重な経験
となりました。また今後もこのよ
うな場があれば是非参加させてい
ただきたいです。」と感想を述べ
てくれました。

当日は老若男女問わず多くの聴
衆が集まり、リズムにあわせて手

拍子を打つなど楽しいステージと
なりました。また、他団体との即
席でのコラボレーションなどもあ
り、京都の夜を大いに盛り上げま
した。

(企画課)

本学ホームページ 全面リニューアル！

8月5日(水)、本学ホームページ
が全面リニューアルいたしました。

リニューアルサイトでは、旧サイ
ト情報の整理・体系化を行い、
サイト訪問者が希望する情報への
アクセススピード向上を実現した
サイト構成となっています。特に、
情報の大項目は画面左側のグロー
バルメニューに配置し、その情報
に関連する詳細情報はページ右側
のサブメニューに整理したこと
により、大項目の情報に関連する詳
細情報がページの右側で一覧形式
となり、詳細ページへのアクセス

が自由に行なえるようになってい
ます。

また、トップページでは新着情
報を3つのカテゴリ(「INFOR-
MATION／重要なお知らせ」
「EVENTS／イベント予定」
「NEWS／大学の動き」)に整理し
てデザインを刷新しました。

本学への交通アクセスやキャン
パスマップには、「Googleマップ」
を表示・リンクさせることにより、
ユーザーからの多様なアクセス情
報検索を可能にしています。個別
のページでは、従来からのYouTube

を活用した動画配信も充実させて
おり、本学における教育・研究の
内容を動画でも情報発信していま
す。

本学ホームページは<http://www.otani.ac.jp>よりご覧ください。

(企画課)



学内防災(消防)訓練の実施

本学では毎年防災訓練を行って
います。今年度は、8月20日(木)に
2号館からの出火を想定して実施
いたしました。当日は、事務職員
から構成される大谷大学自衛消防
隊による現場確認、通報、初期消
火、1階と地階にある教室および
研究室からの避難誘導の訓練を行
いました。

全体訓練の後、北消防署の指導
のもと、消火器による消火と屋内
消火栓の放水を体験しました。ま
た、北消防署予防課の勝山課長補
佐より、防火・防災に関する講話
をしていただき、火災発生時には
公設消防隊が到着するまでの初期
対応が非常に重要であることを学
習しました。

(総務課)



訓練の様子

大学コンソーシアム京都からインターンシップ生の受け入れ

8月27日(木)～9月9日(水)、大学
コンソーシアム京都からインター
ンシップ生を受け入れました。実
習生は、龍谷大学の山本誠太さん
(経済学部第3学年)で、「働くに
あたっての意識付けを高め、自身
の内面的な成長の機会にしたい」
「高次元の視点からものごとを捉え

る力を養う」「企画立案能力を鍛
える」という3つの目標を掲げて
キャリアセンターにて実習を受け
られました。

山本さんの目標やキャリアセン
ターの業務内容をふまえ、次年度
「就職のてびき」の草案作成をし
ていただきました。ステップ1で



発表をされる山本さん

は職業観と進路決定の意思確認、就職活動とは何をしていくのかといった学生が行なう活動プロセスを検討し、ステップ2では活動プロセスに対してキャリアセンターがどのような支援を行なうべきかを検討していただきました。ステップ3では活動プロセスや支援を図式化、「就職のてびき」にどのように反映させるべきか検討するなどして、草案を作成していた

いただきました。

実習期間中には、一般的な電話応対や来客者応対や、キャリアセンターのメイン業務である学生相談や模擬面接の体験なども行なっていただき、最終日には草案をまとめた資料をもとに成果報告会を行ないました。

今回のインターンシップを終えて、山本さんは「就職活動の手引きを企画して、0から手引きの草

案を作り上げたのが自分の力になったと大変感じております。10日間という短い期間でしたが、働くとは何か、大学ができる支援策とは何かといったことを学ぶことができて非常に充実した日々でした。」と述べられ、同時に「相手に理解してもらうことの難しさと自分の力量不足を痛感しました。」と感想を語っていただきました。

(キャリアセンター)

本学学生による「インド古典舞踊発表会」開催

9月1日(火)～5日(土)、「国際サンスクリット学会」が京都大学を会場に開催され、そのレセプションとして、シヨバ講師と、講師に指導された本学学生有志による「インド古典舞踊」発表会が9月3日(木)に催されました。会場となった京都大学時計台記念館「百周年記念ホール」には、諸外国からの研究者や一般来聴者約300名の

観客が集まり、大変盛況な発表会となりました。

オープニングではシタールの演奏が披露され、雰囲気は最高潮に達したまま学生有志による東インド・オリッサ州に伝わる古典舞踊「オディッシー」やフォークダンスの演舞が行なわれました。演舞終了後には、学生やボランティアの方々が用意した「チャイ」が振

舞われ、世界各国の方々と熱のこもった交流がかわされました。

(企画課)



本学学生達が大谷幼稚園行事をサポート

本学の同一法人である大谷幼稚園から、幼稚園行事“虫とり大会”での学生サポートの依頼が寄せられ、9月3日(木)・4日(金)の2日間、教育・心理学科の学生たちがボランティアとして参加しました。残暑厳しいなかボランティアに参加し、元気いっぱいの子どもたちと触れ合った川井柚香さん(教育・心理学科第1学年)からは、下記の感想をいただきました。

「大谷幼稚園の子どもたちと一緒に

虫とりに行ってきました。十人十色な子どもたちに、最初は戸惑いがありましたが、一人ひとりと正面から向き合い話を聞くことで心を開いてくれ、充実した時間を過ごすことができました。また、子どもたちの個性を大切にしながら皆を一つにまとめていく先生のパワーを目の当たりにして、とても勉強になりました。自然の中で、子どもたちとともに汗を流し過ごした時間は、これからの学びの大

きな糧になったと思います。」

(教職支援センター)



虫とりの様子

南条文雄博士生誕160周年 記念講演会

9月7日(月)、講堂を会場として、本学の第2代学長である南条文雄博士の生誕160周年、および日本印度学仏教学会第60回学術大会を記念する講演会が開催されました。

最初に、本学の安富信哉特任教

授が「近代における浄土教研究—近代真宗学の方法論—」という題で講演されました。真宗学の方法論はその祖型を学祖としての親鸞に見いだす規範的研究であると確認され、その近世宗学における継

承・固定化の問題、近代教学における再生・展開の軌跡を本願寺派と大谷派の相違を踏まえて解説されました。そして金子大栄氏が真宗学の方法論を「親鸞の学の方法に還る」と明確化した『真宗学序

説』の意義についてお話しくさ
いしました。

続いて北海道大学の藤田宏達名
誉教授が「浄土経典研究の課題—
南条文雄博士が開いた道—」とい
う題で講演されました。南条博士
が「近代仏教学」を、近代の文献
学・歴史学の方法論的基礎に立つ
客観的研究である、と明確にされ
た意義について述べられました。
そして、浄土経典研究の現況と課
題を詳しくお話しになり、浄土経

典の研究においては宗祖親鸞が
『無量寿経』を異訳経典と比較対
照された学び方にならない、近現代
の文献学的研究の成果を鑑みた研
究が必要であるとお話しくさ
さい



安富信哉特任教授

ました。

国内外から多くの聴衆の参加を
いただき、盛会の内に幕を閉じま
した。



藤田宏達北海道大学名誉教授

4号館・5号館竣工式を執り行う

この度、本学の新校舎である
「4号館・5号館」が竣工し、9
月10日(木)、5号館5203教室を式場
に竣工式典を挙行了しました。

式典は安原晃理事長をはじめ、
理事、教育後援会などの来賓、学
内関係者の列席のもと、学長を導
師に勤行を行いました。引き続き
理事長、設計監理者、施行者の挨
拶が行われ、その後4号館・5号
館の内覧を行いました。

4号館・5号館は、2009年4月
に開設された教育・心理学科の開
講カリキュラムに対応した施設と

して、教室の他、音楽室、ピアノ
レッスン室、図工室、理科室、小
学校の教室を模した模擬教室、こ
どもとのふれあいの場として多目
的ルームを配置しました。また、
教職課程履修学生の相談、指導体



竣工式の様子

制を強化充実すべく、至誠館2階
にあった教職支援センターを、4
号館1階に配置して教育環境を整
備しました。

(総務課)



移転した教職支援センター

東側キャンパス広場を開放します

東側キャンパス4号館・5号館
とバイク置き場の間を「東側キャン
パス広場」として再整備しまし
た。

「東側キャンパス広場」は、学
生、課外活動団体に開放するとと
もに、大学諸行事でも使用すること
となりました。

使用にあたっては開放時間、注
意事項を遵守してください。

[開放時間]

- (1) 授業実施期間(月～金)
 - a) 一般学生対象
 - ・ 8:00～9:00
 - ・ 昼休み時間(2時限～3時限
の間の休憩時間)
 - b) 課外活動団体(公認団体)
活動対象
 - ・ 16:10～20:00
- (2) 土、日、祝、長期休暇期間
 - ・ 課外活動団体(公認団体)の
活動を中心に調整

[注意事項]

- ・ 広場の使用は大学の諸行事を
優先します。
- ・ 出入口は体育館側西の出入
り口とします。
- ・ 怪我や事故には十分注意して
ください。
- ・ 本学学生以外の使用は一切認
めません。

(総務課)

大谷幼稚園開放セミナー開催

7月10日(金)と9月8日(火)、宇治市木幡の大谷幼稚園にて大谷幼稚園開放セミナーが開催されました。このセミナーは、大谷幼稚園の地域開放・住民の生涯学習に資する機会として開催したものです。本学の谷口奈青理准教授が講師として招かれ、7月には「みらいのこの子 この子の未来」、9月は「甘えてきてもいいんだよ」というテーマで講演していただきました。

谷口先生はカウンセリングの経験から、多くの保護者は子どもが甘えてくることに不安を感じ、つい厳しく接してしまうことがあり、そのことがまた新たな悩みの種になると問題提起しました。しかし、実際に子どもが甘えてくるのはわずかな期間であること、その期間

にできるだけ多くのよろこびやかなしみを体験してもらうこと、その上で保護者が愛情をもって甘えさせるのは、子どもの心の揺れ幅を大きくし、成長してからのその子の心のありように大きな影響があると述べ、講演後は熱心な質疑の応答となりました。

参加された方は一人一人、子ども

もの個性に合わせて見守り育てるには自分がどうかかわるのかについて、再確認したのではないのでしょうか。

大谷幼稚園開放セミナーは今後も定期的に行っていく予定です。
(教育研究支援課)



「全国父母兄弟懇談会」を開催

9月26日(土)、全国から多数のご父母兄弟が本学に集い、「教育後援会全国父母兄弟懇談会」が開催されました。

第Ⅰ部の全体会は、今川雅照教育後援会会長の開会挨拶に始まり、木村宣彰学長からは大谷大学が目指す教育目標と本学の特質についてのお話がありました。引き続いて、大内文雄文学部長から大学の教育・研究活動についての現況説明があり、その後、木越康学生部長が課外教育・海外研修・クラブ活動等、日頃の就学の様子について、映像を交えて紹介を行いました。

全体会終了後、個別相談会並びに響流館を中心とした施設見学・博物館の観覧等が行われました。

個別相談会では、「学科・成績・

進級」、「進路・就職」、「海外留学」、「学生生活並びによろず相談」の各コーナーが設けられ、出校の指導教員への面談を含め、父母兄弟から熱心な相談が寄せられました。

一方、施設見学の図書館・学生研究室では、整えられた勉学環境と図書資料の豊富さに驚嘆されていました。また博物館では、秋季企画展「南條文雄と近代仏教学」が開催中で、多数の貴重資料を目

の当たりにされ、係員の説明に熱心に聞き入っていました。

第Ⅱ部は、会場をグランドプリンスホテル京都に移し、教職員も出席の懇親会が催されました。教員とご父母兄弟とが直接意見を交わす懇談の場となり、とても和やかな雰囲気の中で、有意義なひとときを過ごしていただきました。

(校友センター)



全体会での役員紹介の様子



懇親会で挨拶する今川会長

課程博士の学位を授与

本学ではこのたび、博士後期課程修了者3名に、「博士（文学）」の学位を授与しました。学位取得者は、上野牧生さん（仏教学）、堀井愛さん（社会学）、菊池晃さん（国際文化）の各氏です。本年3

月末に提出された学位請求論文の審査が終了し、去る9月30日（水）に学位授与式が行われました。

（なお、上野牧生さんは留学中のため授与式を欠席されました。）
（教務課）



写真左から、博士の学位を授与された菊池さん、堀井さん

本学学生が仏教クラブ第二回奨学金を受ける

京都を中心とした寺院と関連業者でつくる仏教クラブによる「仏教クラブ奨学金」の第二回授与式が10月9日（金）、京都センチュリーホテル（京都市下京区）で行われました。

仏教クラブ奨学金は、仏教クラブの事業による浄財をもって、留学生が大学において仏教に関する研究を行うため必要な資金を援助することを目的としています。

第二回奨学金授与者として、本学のLE NHU THU HANGさん（修士課程仏教学専攻第1学年）が選ばれました。LE NHU THU

HANGさんは授与式で仏教クラブへ感謝の意を述べ、研究内容や将来の抱負を次のように語りました。

「ベトナム仏教は歴史が長く、仏教信者がベトナムの人口の90%以上を占めていますが、学術的教理の研究についてはまだ浅いため、その領域で自分の力を発揮できるよう、私は留学を決心して日本にやってきました。“アビダルマにおける大乘仏教思想”をテーマとし、大乘思想との関連において“アビダルマディーパ”を読解し、アビダルマの思想の実相を究明するつもりです。さらに、大谷大学

博士後期課程へ進学して博士論文を提出することを目指します。その後は帰国し、ベトナム仏教研究領域への視野も広げていきたいと考えています。」

（学生支援課）



授与式の様子（左：LE NHU THU HANGさん）

地域連携に児童文化研究会が活躍

10月11日（日）に紫明学区の区民大運動会が開催され、この運動会のボランティアサポートに本学の児童文化研究会の6名が参加しました。

このボランティアサポートは学区の委員の方よりボランティア学生の依頼があったもので、3年前から続けられています。毎年児童

文化研究会の学生に参加をしていただき、大会の運営サポートに携わっていただいています。

当日は晴天で運動会びよりの一日となり、風が少し強かったものの多くの区民が参加し楽しい大会となりました。ボランティアの学生たちは朝早くから開会の準備や競技の準備に忙しく動き回り、立

派に裏方を務めました。

（企画課）



開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要を挙行

10月13日(火)、「開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要」が執り行われました。10月13日を開学の日とするのは、現在の大谷大学の前身にあたる「真宗大学」を東京巢鴨に移転して近代的な学制の整備を行い、1901年(明治34年)10月13日に開校式が挙行されたことによります。

式典は讃歌、学長を導師として法要が営まれた後、永年勤続者表彰と記念講演が行われました。今

年勤続30年を迎えた事務職員2名の方々に表彰状と記念品が贈られました。

引き続き、元国際基督教大学学長の絹川正吉氏より「学ぶことの意味をたずねて」と題して記念講演をしていただきました。

講演では、科学・技術の発展に伴い生じてきた現代的諸問題の解決に、『歎異抄』がもつ可能性を紹介されながら、宗教系大学にその糸口があるとの指摘があり、大

谷大学の果たす役割に大きな期待を述べられました。

(総務課)



絹川正吉元国際基督教大学学長

国際交流だより (2009年7月～10月)

■来学

- ◎7/28 佛光大学(台湾 宜蘭)
奥村浩基助理教授(本学卒業生)
学生交流について意見交換
- ◎10/24 東北師範大学(中国 長春)
張治国 常務副学長、安載鶴 国際合作與交流處副處長
今後の学術交流について意見交換



ケラニア大学との学術交流協定締結式

■訪問

- ◎木村学長の学術交流協定校訪問
8/10 ケラニア大学(スリランカ)
学術交流協定締結
- ◎イギリス訪問
8/24 グロスタシャー大学(チェルトナム)
学生交流について意見交換
9/1 カンタベリー・クライスト・チャーチ大学(カンタベリー)
学生交流に関する覚書の締結
- ◎木村学長の中国訪問
10/5 永福寺訪問、帰国留学生との懇談会(杭州)
10/6 国清寺訪問(天台山)
10/9 南京大学哲学系での木村学長の公開講演会(南京)
鳳凰嶺龍泉寺訪問(北京)
10/10 中国佛学院での木村学長の公開講演会(北京)
- ◎中国学術交流協定校等の訪問
10/8 浙江財経学院(杭州)
現地視察
10/12 首都師範大学(北京)
学生交流について意見交換
10/13 中央民族大学(北京)
学生交流について意見交換



南京大学での木村学長の講演 通訳は林観潮 廈門大学哲学系副教授



学生交流に関する覚書を締結したカンタベリー・クライスト・チャーチ大学

(教育研究支援課)

博物館夏季・秋季企画展を開催

博物館では、6月2日(火)から8月3日(月)の会期で、夏季企画展「儒・仏・道・神 一東アジアの宗教と文化」を開催しました。今回の企画展では初出陳の「春日鹿曼茶羅」をはじめ、本館所蔵の名品を通じて儒教・仏教・道教・神道の交渉の歴史を紹介しました。

また、9月7日(月)から26日(土)の会期で、秋季企画展「南條文雄と

近代仏教学」を開催しました。会期中に開催された日本印度学仏教学会に協賛し、本学第2代学長を務めた南條文雄の著作原稿や書簡などゆかりの資料を中心に、南條と同時代に活躍し日本の近代仏教の発展に寄与した小栗須香頂、能海寛、寺本婉雅などの遺品も展示しました。また、秋季企画展では、例年の通り、博物館学課程実習生

による実習生展「賀茂六郷と上総町遺跡」を同時開催しました。本学において開催された日本印度学仏教学会第60回学術大会への参加者はじめ多数の方々に来場いただき、また実習生の解説ガイドの説明に聞き入る来館者も多数見受けられました。

(図書・博物館課)

博物館特別展、冬季企画展のご案内

博物館では「祈りと造形 一韓国仏教美術の名品一」をテーマに特別展を開催中です。韓国・東國大學校との博物館交流締結を記念し、同館所蔵の仏教美術コレクションと、日本国内に遺る韓国伝来の名品を紹介しています。日頃見ることのできない貴重な韓国の美術品に触れる貴重な機会ですので

是非ご来館ください。

また、「京都を学ぶ」をテーマに冬季企画展の開催を予定しています。内容詳細は博物館ホームページに掲載予定ですのでご確認ください。

いずれも在学生・同窓生は無料で入館していただけます。

特別展会期：開催中～2009年11月28日(土) (休館日 日・月曜日、但し11月22日・23日は開館)

冬季企画展会期：2009年12月15日(火)～2010年2月13日(土) (休館日 日・月曜日、12月29日～1月6日、2月9日～11日)

(図書・博物館課)

大谷大学伝道掲示板 きょうのことば4 9月25日刊行

本学には正門と北門に伝道掲示板がおかれています。教員が毎月ひとつの言葉を選び、書道部の学生に清書の協力をお願いし、掲示しているものです。

日本では、多くの寺院に伝道掲示板があり、ブツダや祖師方の言葉を紹介しています。道行く人が門前の掲示板で足を止め、先人の言葉に見入る。忙しい日常にあっふと立ち止まり、自分の生き方や社会のあり方を見つめなおす、そんな大切なひと時を提供する役

割を果たしてきたものと思われま。大谷大学の伝道掲示板の願いも、そこにあります。

『きょうのことば』に収めたものは、その解説文です。学内の教員が分担し、それぞれの言葉について解説を加えています。

ご味読いただき、人間や社会のありようについて、一緒に考える時間を持ちたいと思います。

『きょうのことば』をご希望の方は、学生支援課窓口までお越しください。(学生支援課)



学問のしおり

雨の言葉 ローゼ・アウスレンダー

雨の言葉が
私に氾濫する

しずく
滴によって吸い上げられ
雲の中に押し上げられ
私は雨となって
開いた
真っ赤な
嬰葉けしの口もとに降る

ドイツに咲く嬰葉Mohnはタンポポのように身近な雑草で、特に麦畑のあぜ道などに可憐な花を咲かせ、道行く人の目をつかませてもらえる。空に向かって開く柔らかな花弁はヴェールのように繊細で、ちょっとした風にさえ散ってしまう。もちろん阿片とは無縁で、ひなげし、コクリコ、ポピーなどと呼ばば馴染みの方もおられるだろう。

二度の世界大戦を経験し、特に第二次大戦では極限的

な状況を生き抜いたユダヤ系詩人の晩年に降る「雨の言葉」とはいったいどのようなものなのだろう。荒れ狂う嵐、恨みの雨、それとも慰めの慈雨だろうか。たとえ地面をたたきつけ大地を揺るがすような豪雨であろうとも、雨はやがて土に濾過され澄んだ水になる。やがて気化し「雲の中に押し上げられ」ていく。しかも、大きな循環のなかで彼女の言葉は天上の気圏に昇華してだけでなく、また再び地上に降ってくるという。それも、何気ない、ありきたりの雑草の(つまり身近な隣人の)柔らかな「口もと」に。この小さな詩句のなかに根源的な人間に対する愛情を感じ、言いようのない救いを感じるのは私だけだろうか。

2007年の暮れに上梓した拙訳『雨の言葉 ローゼ・アウスレンダー詩集』(思潮社)は、幸いにも好評を持って迎え入れられた。不思議なことに日本ではまだほとんど知られていないこの女性詩人の透徹した言葉の一滴一滴が、これを機に少しでも多くの人々の心に浸みこみ、確かな水脈となってくれることを願っている。

1901年生まれ(大谷大学と同年)のアウスレンダーよ



現実を超える言葉

加藤 丈雄

り8歳若いヒルデ・ドミンもまた、ユダヤの血を引いているということだけでやはりナチス時代に辛酸をなめなくてはならなかった。亡命のためイタリヤ、イギリスそしてドミニカへと地球の半分にもわたって繰り広げられた逃避行の最終地点で、彼女は自ら命を絶つことを考えるようになる。抗い難く迫ってくる自殺の誘惑からこのとき彼女を救ってくれたのは詩を書く行為だった。たとえ流浪の途上ですべてを失ったとしても、決して誰からも奪われないもの〈母なる言葉〉ドイツ語で詩を生み出すこと、そのことで彼女はかろうじて死の誘惑を乗り越えることができた。

アウスレンダーほどではないが、やはり日本ではまだ十分に知られているとは言い難いドミンの詩を私が翻訳したり、論文を書いたりし始めたのは2005年の秋のことで、彼女はまだ存命なばかりか、朗読会を催したり、公的な場に姿を現わしたりして健在ぶりを示していた。願えばおそらく手紙のやり取りや訪問さえも可能だったかもしれないが、着手したばかりでもあり、それに他の研究のこと(小説『みずうみ』で有名なシュトルムに関する研究)もあって連絡を取ろうとはしなかった。いずれそ

のうちに、と考えたのは当方の消極性ばかりでなく、それほど彼女が活動的で年齢を感じさせなかったからでもある。しかし、死は突然やって来る。2006年2月22日、前日には連邦功労賞の授賞式に来賓として元気な姿を見せていた詩人は転倒して大腿骨を骨折する。それがもとで心不全をおこし、その日のうちに帰らぬ人となった。

残された者は常に何かしら悔いを残す。一読者として、そして研究者として、彼女自身の考えを直接聞く機会は、残念ながらも永遠に失われてしまった。だがしかし、私たちに詩の言葉が残されている。それだけでもう充分なのかもしれない。詩人は迫り来る現実を乗り越えるためにこそ作品世界を創造し、耐え難い日常から解き放たれたのである。目を向けるべきは畢竟、詩の言葉自体であって、それを生みだした事実関係の方ではない。優れた作品は、作者を離れ、独自の命を生き続けるのだから。

(かとう たけお)
教授 ドイツ文学

国際交流トピックス

2009年度 海外研修を終えて

英国 キール大学短期英語研修（イギリス文化研究・実践英語）

8月10日(月)～9月3日(木)
参加学生数 11名（引率者2名）

- キール大学にて語学研修（19日間）
- 文化研修：ストラットフォード・アポン・エイヴオン、リヴァプール、チェスター、オックスフォード、エマ・ブリッジウォーター陶器工場、農場見学
- ロンドンにて文化研修（4日間）

今年度の英国短期英語研修は、昨年度と同様、イングランド中部のキール大学において、大東文化大学（参加者16名）と合同で行なわれました。学生たちは、夏とは思えない涼しい気候や習慣の違いに戸惑いながらも、緑豊かで広大

なキャンパスで、のびのびと充実した生活を送ることができたのではないかと思います。

研修は、歓迎会とキャンパス・ツアーから始まり、プレイズメント・テストにより学生たちは2つのクラスに分けられました。授業は英会話の授業の他にプロジェクトと呼ばれる授業が行われました。これは、2・3人のチームに分かれて、例えば「イギリスの音楽」とか「イギリスのファッション」といったテーマを決め、30人を目標にインタビューを行い、調査した結果をまとめて最後に発表するというものです。最終日のプレゼンテーションには大勢の人が見に来られ、学生たちは英語で説明したり質問に答えるなど、短い間に



プレゼンテーションの様子

随分成長した姿を見せてくれました。

小旅行では、ビートルズを生んだリヴァプールやウェールズとの国境に近いチェスター、シェイクスピアの生誕地ストラットフォード、大学の町オックスフォードを訪ねました。どの地もイギリスの歴史と伝統を感じさせる趣のある場所ばかりでした。キール大学の



ロンドンの国会議事堂を背景に

周辺は、陶磁器の製造で有名な地域であり、陶器工場を見学した際、学生たちは絵付けに挑戦しました。また、牛250頭を飼育し、小麦と大麦を栽培している農場を見学して、イギリスならではの風景にも触れることができました。

学生たちは滞在期間の半分をホームステイ、半分を大学寮で過ごしましたが、ホームステイでは家族として暖かく迎えられ、すっかり打ち解けた様子でした。修了式は、ホストファミリーも列席する中で盛大に行われ、学生たちは、お世話になったキール大学のスタッフやホストファミリーの皆さんへの感謝の気持ちを込めて、全員で歌を披露し思い出深いものとなりました。キール大学での研修を終えた後は、ロンドンでの観光や買物を満喫して帰途につきました。

今回は新型インフルエンザの流行で実施が危ぶまれた時期もありましたが、研修を通して明るくたくましくなっていく学生たちの姿を目にすると、これからもこの研

修が継続されていくこと、そして、より多くの学生が参加してくれることを願わずにはられません。

(村瀬 順子)



キール大学での修了式

中国仏教遺跡研修 (中国の宗教と文化)

8月20日(木)～31日(月)

参加学生 12名 (引率者2名)

○おもな研修地

大同 (雲崗石窟・懸空寺)、五台山 (菩薩頂・顯通寺・竹林寺他)、太原 (玄中寺)、平遙 (平遙古城)、洛陽 (龍門石窟)、西安 (香積寺・草堂寺・興教寺・大慈恩寺・兵馬俑坑博物館他)、天水 (麦積山石窟・五丈原諸葛廟)、蘭州 (炳靈寺石窟)・北京 (八達嶺長城・天安門・故宮)

中国仏教遺跡研修は、中国北部の仏教遺跡を中心に、日本仏教に大きな影響を与えた中国の宗教と文化を学ぶことを目的として開講されています。法然・親鸞に大きな影響を与えた曇鸞・道綽・善導三師、『阿弥陀経』『法華経』『維摩経』を翻訳した鳩摩羅什、『西遊記』三蔵法師のモデルとして知られる玄奘ゆかりの寺院や旧跡を

主な研修地としています。

第2回目の実施となった今回は、新疆ウイグル自治区の民族対立の影響もあり、当初予定されていた敦煌にかわって、天水の麦積山石窟、蘭州の炳靈寺石窟が新たな研修地となりました。両石窟は敦煌と並ぶ重要な遺跡であるにもかか

わらず、訪ねることが容易でない場所として知られています。今回その両石窟を訪ねることができ、とても意義深い研修となりました。

他大学からの参加者を含む一行は、オリンピックを終え今年建国60周年を迎える北京に到着した後、雲崗石窟を皮切りに五台山、太原、



香積寺にて



麦積山石窟にて

洛陽・龍門石窟、西安と日程を進めていきました。

玄中寺・香積寺では、勤行や両

寺の住職さんとの対談を通して、私たちの日頃の学びを支えてきた歴史の深さを感じた人もいます。西安では街中を自由に散策する時間や、旅行中お世話してくださったガイドさんと女子学生による餃子パーティーを通して、参加したそれぞれの思いや考え方をすることもできました。完成間近の高速道路を脇に見ながら悪路に長時間身を揺らした天水までの道のり。冷や汗を流しながら高い回廊を登

り、そこで目にした息をのむような麦積山石窟・炳靈寺石窟での光景。……12日間の日程の一コマコマを通して、参加者それぞれが中国の歴史と風景の雄大さ、そこに生きている人々への感慨を深めることができました。

研修を通して得られた多くのものを通して、一人ひとりが自らの今後への決意を新たにしつつ無事に研修を終えることができました。

(三木 彰円)



炳靈寺石窟にて

ヨーロッパ文化研修〈フランス〉(ヨーロッパの宗教と文化(フランス))

8月26日(水)～9月8日(火)
参加学生数 21名(引率者2名)

○おもな研修地

オベルネ、ストラスブール、ストリュートフ旧ナチス収容所、オーケーニヒスブルク城、ウンターリンデン美術館、ライン河畔、コルマル、カイゼルスベルク、キンツハイム、シゴルスハイムの丘、リクヴィル、エギスハイム(以上アルザス地方)、ディジョン、ボヌのオテル・デュー、クロ・ドゥ・ヴァージュ(ワインシャトー)、ヴェズレー(以上ブルゴーニュ地方)、ヴェルサイユ、パリ

2年に一度行われるフランス研修は、まずドイツのフランクフルトから専用バスで3時間かけてフランスに入り、朝市で賑わう美しい街オベルネからスタートしました。関空から香港経由で、フランスのストラスブールには約20時間後の早朝到着、そのままバス移動でオベルネ観光開始という、かなりハードな旅の開始でしたが、学生諸君は若いだけあって想像以上に元気で、引率側もほっとしました。2日目以降については、時間的にもゆったりと組まれたスケジュールとなりました。100メートルを越えるストラスブール大聖堂

の頂上付近まで、なんとほぼ全員が歩いて登ることに挑戦したり、楽しいハプニングにも事欠きませんでした。

アルザスは、これまで何度も独仏間での争奪の地となり、苦難の



コルマルのウンターリンデン美術館見学前に



アルザスのシゴルスハイムの丘で

歴史をたどってきた地方です。今回われわれは、いわゆる観光旅行では訪れることができないような、美しいシゴルスハイムの丘に広がる広大な無名戦士の墓や、旧ナチスの強制収容所ストゥリュートフなどもあえて訪れました。絞首台や人体実験の手術室もそのまま残る施設の光景に参加者は強烈な衝撃を受けたようでしたが、かつてアルザスが強いられた歴史的教訓の重さや平和と自由の保持の尊さについて、また人間性さえ奪いかねない戦争の恐ろしさについて、改めて深く思いをめぐらす機会となりました。

もちろん楽しい観光の部分が少ないわけではありません。滞在中は、いかにもアルザス的な、まるで童話の世界のなかのような美しい街や、かわいらしい村の数々を訪れて散策を楽しみました。ワイン祭さなかの中世の村エギスハイムと、周囲わずか1キロほどの城壁に囲まれ、色とりどりの花々に飾られた静かな村キンツハイムなど、それぞれ個性も豊かでした。また、カイゼルスベルクで

も、横手に廃墟としてそびえる荒城の頂にまで登り絶景を楽しんだ元気な人も多数いました。

総じて、一般の観光旅行では経験できない部分での満足度が高かったようです。これはブルゴーニュに移っても同様で、中世ブルゴーニュ公国の古都ディジョンや、ワインの都ボヌヌでは、アルザスとはまた違った街並みや伝統の魅力に、めいめいの関心とペースに応じてじっくり接してもらいました。

世界的に有名なワインシャトー、クロ・ドゥ・ヴージュでは、うち解けた雰囲気なかでカーヴ見学と試飲とを楽しみ、その名高い丘で世界遺産に登録されているヴェズレーでは、マグダラのマリアを奉る聖マドレーヌ寺院を訪れその聖遺骨や美術的に価値のある彫刻などを目のあたりにしました。丘の上から見渡す限りに広がるブルゴーニュ独特の田園風景は、実り多い地方研修の掉尾を飾るにふさわしいものでした。幸い、ほぼ全行程を通じて天候に恵まれ、事故もなく無事にフランス研修を終えることができたのはなによりのことでした。

最後に関空に無事帰着したとき、思いがけず全参加者から自発的に、引率者二人と添乗者のそれぞれにメッセージメモが渡されるというサプライズがありました。皆それぞれにとって満足度の高い研修旅行だったことが改めて知れたことは、引率者、添乗者にとって何よりも嬉しいことでした。参加者だけでなく引率者も共に楽しみ、新たな発見も多かった研修でした。

(並木 治)



クロ・ドゥ・ヴージュのぶどう畑で

2009年度 大谷大学 学園祭「紫明祭」

期 間：2009年11月13日(金)～11月15日(日)

テーマ

「一祭合祭」

2009年度大谷大学学園祭実行委員会

委員長 村上 帰命



今年も学園祭シーズンがやってまいりました。今年度大谷大学学園祭実行委員会委員長の真宗学科第3学年村上帰命です。



今年度の学園祭のテーマは、「一祭合祭」です。これは「何もかも全部、残らず、全てのもの」といった意味の四字熟語「一切合切」に由来しています。

今年度のテーマには、まず、ひとつひとつの「祭」であるステージ企画や参加型企画、展示、模擬店、そしてフリーマーケットなどの全てのイベントが重なり合って、1つの大きな素晴らしい「祭」、すなわち「紫明祭」となって欲しいという想いがこめられています。そして、人と人との関わりが薄くなりつつある現代社会において、紫明祭に参加していただく本学の学生の皆さん、教職員や地域の方々、そして会場に足を運んで下さる来場者の方々など、学園祭に携わる全ての人の心がこの学園祭

を通してひとつになり、それぞれの「祭」の内容に関係なく皆さんが一体感を持って盛り上がることを願って、この「一祭合祭」というテーマにしました。

今年度学園祭は一昨年と昨年の学園祭のいいところを受けつぎ、一昨年の参加型企画と昨年のプロアーティストによる無料ライブを融合させています。学生の皆さんや教職員の皆さん、地域の方々こそが学園祭における主役であり、見て楽しんでいただく他にも、いろいろな楽しみ方をして欲しいと思い、このようなタイムテーブルにしました。



私は本学第1学年の時から学園祭に関わっており、第2学年の時には実行委員会に入会し後夜祭を担当させていただきました。その時の後夜祭というイベントを作っていくという実感、成功した時の達成感は忘れることができません。そして今年は委員長という、自分

には畏れ多い役に就いています。私が委員長になったからには去年の学園祭に負けず、今までにない学園祭を皆さんと一緒に成功させたいと思っています。

また、この学園祭を通して私自身多くの出会いがありました。参加していただく皆さんにもこの学園祭を多くの出会いのきっかけにしていただけたらなとも思っております。



最後に、学園祭中一人でも多くの方の笑顔に出会えることを楽しみにして、委員長挨拶と代えさせていただきます。みなさん2009年度大谷大学紫明祭「一祭合祭」大いに、思う存分、余す所なく、楽しんでください！！

合掌

タイムテーブル

期 間：2009年11月13日(金)～11月15日(日)

日	場 所	イベント名	時 間	内容概略
13日(金)	野外ステージ	Close up 谷大!	16:30～17:20	谷大に関するクイズ大会の予選。
		前夜祭 青春の1ページ ～感動の始まり～	17:20～19:40	2009年度学園祭「紫明祭」を盛り上げるための前哨戦。太鼓演奏やビンゴ大会等。
	講堂棟	VIVA体育会	14:00～16:30	体育会内部のイベント。
14日(土)	野外ステージ	Award of superb Music 2009	11:30～14:00	学内で活動している音楽団体のライブ。
		プロのアーティストによる コンサート	17:30～19:30	4人組のJ-POPバンド「藍坊主」が谷大にて生演奏。
	講堂棟・ キャンパス内	スタンプDEゲーム	14:30～16:30	小学生以下の児童を含めたスタンプラリー。
	1号館	展示	10:00～18:30	学生が日頃の活動の成果を発表する。
	キャンパス内	模擬店	10:00～19:00	各団体の個性あふれる模擬店。
	博綜館ピロティ	OBSサテライトスタジオ	10:00～19:00	大谷大学放送局による公開生放送。各種録音番組やイベントを企画。
	講堂棟食堂	サントリー酒場	16:00～19:30	大谷大学体育会主催の酒場。
	博綜館1F 保健室前	タバコ被害測定	13:00～16:00	呼気一酸化炭素濃度の測定でタバコによる害の程度をチェック。
	博綜館 第1会議室他	第14回大谷大学同窓会 ホームカミングデー ～同窓生 母校への里帰りの1日～	13:00～16:00	同窓会主催の同窓生の里帰り企画。
15日(日)	野外ステージ	SHOW MUSIC ★ SHOW LIVE	11:00～12:30	学外で活動している音楽団体のライブ。
		谷大へ行こう ～谷大での主張～	13:10～14:10	参加者に日頃抱えている悩み・思いを主張してもらい、声量を計測する。
		Close up 谷大!	14:20～15:00	谷大に関するクイズ大会の決勝戦。
		後夜祭 響流舞心	16:30～19:30	2009年度紫明祭の幕引き。ダンスイベントが中心。
	野外ステージ周辺	バルーン×バルーン×バルーン	14:30～15:30	風船の無料配布。
	1号館	展示	10:00～18:00	学生が日頃の活動の成果を発表する。
	キャンパス内	模擬店	10:00～18:00	各団体の個性あふれる模擬店。
		北区 地域と大学つながるネット フリーマーケット	10:00～17:00 (販売は～16:00)	主に大学周辺地域対象のフリーマーケット。
	博綜館ピロティ	OBSサテライトスタジオ	10:00～20:00	大谷大学放送局による公開生放送。各種録音番組やイベントを企画。
	講堂棟食堂	サントリー酒場	16:00～19:30	大谷大学体育会主催の酒場。
博綜館1F 保健室前	タバコ被害測定	13:00～16:00	呼気一酸化炭素濃度の測定でタバコによる害の程度をチェック。	

学園祭ホームページ (<http://shimeisai.moo.jp/>) も御覧ください。
イベント・時間や出演者の変更等がありますので、御了承願います。

総務課

大谷大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要

大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要を右記の日程で厳修いたします。皆さんお誘いあわせの上、ご参加ください。

日時 11月27日(金) 午前10時～
 場所 講堂
 (記念講演)
 講師 本学名誉教授 大桑 齊氏
 講題 真宗と他者
 — 依正二報滅亡の世に —

年末・年始の日程

12月24日(木) 宗祖御命日勤行
 1月7日(木) 修正会
 授業再開

教務課

真宗大谷派教師前期・後期修練、教師補任申請の説明会について

後期修練ならびに教師補任申請(大学院・文学部・短期大学部の修了・卒業年次生主対象)の受講説明会を11月11日(水)に行います。

また、前期修練(短期大学部第1学年、科目等履修生真宗大谷派教師資格取得コース生主対象)の受講説明会を12月中旬に行います。

受講予定者は教務課掲示板にて日時等を確認の上、説明会に出席してください。

修士論文・卒業論文の提出について

◎論文提出・題目変更締切日について

来年3月、大学院修士課程修了見込み、文学部卒業見込みの学生は、右記の一覧表で論文提出締切日等を確認の上、期日を厳守してください。

なお、題目を変更する場合は、所定の「題目変更届」を教務課窓口で受取り、指導教員の承認印を得た上で、右記の題目変更締切日までに教務課へ提出してください。

◎提出場所について

教務課窓口に提出してください。ただし、修士論文の提出最終日および卒業論文提出最終の2日間は右記の会場に提出してください。

— 題目変更・論文提出締切日時について —

種別	題目変更締切日時	論文提出締切日時
修士論文	12月3日(木)午後5時	12月10日(木)午後4時
卒業論文	12月15日(火)午後5時	1月12日(火)午後4時

— 提出最終日の会場について —

種別	最終日	会場
修士論文	12月10日(木)	至誠館会議室(至誠館2階)
卒業論文	1月8日(金) 12日(火)	多目的ホール (講堂棟3階)

(注意事項)

■論文等の提出方法や様式については『履修要項』や『修士論文作成の手引』『卒業論文作成の手引』で確認してください。

■ワープロ使用や縦書・横書等の様式については、専攻やコースにより制限事項が異なりますので、事前に指導教員と相談してください。

なお、ワープロを使用する場合、所定の書式以外で提出する場合は、所定の「ワープロ書式

所定外作成届」を教務課窓口で受取り、指導教員の承認印を得た上で、題目変更締切日までに教務課へ提出してください。

■提出最終日の締切時間「午後4時」とは、題目確認・ページ数の記入・目次の作成・見返し等をすべて整え製本した状態で提出する最終時間のことです。午後4時の段階で、この要件を満たしていない論文は受理できませんので注意してください。

キャリアセンター

キャリアセンターは、就職や進学など、進路全般についての相談窓口です。相談や質問があれば、学年を問わず、キャリアセンターに来てください。

また、キャリアセンターでは以下のガイダンスなどを企画しています。詳細は、キャリアセンターから発送されるDMや掲示、学生向け情報提供システムなどで確認してください。

就職活動報告会

対象：2011年3月卒業・修了予定者
日時：2009年11月18日(水) 16:10~18:10
会場：響流館1階 ギャラリー

*内定を得た卒業年次の学生に、どのように就職活動をしたのか質問し、アドバイスを受けるチャンスです。今後の就職活動のためにもぜひ参加し、有益な情報をつかんでください。

履歴書写真撮影 (有料)

日程：2009年11月18日(水) 10:00~17:00
19日(木) 10:00~17:00
20日(金) 10:00~17:00
会場：至誠館2階会議室

*就職活動で必要となる履歴書用写真を、学内で撮影することができます。安価な価格設定になっていますので、ぜひこの機会に履歴書の写真を用意してください。

面接対策実践講座

対象：2011年3月卒業・修了予定者
日程：2009年11月28日(土) 12:30~17:00
12月5日(土) 12:30~17:00
12月13日(日) 12:30~17:00
12月19日(土) 12:30~17:00
2010年1月9日(土) 12:30~17:00
1月23日(土) 12:30~17:00
2月2日(火) 12:30~17:00
申込期間：10月29日(木)~各実施日の3日前まで
(いずれか1日を申し込んでください)

*全員体験型面接講座です。全員が面接を体験することによって、個々にアドバイスを受けることができます。面接の基礎編から難問奇問編までトレーニングします。また、面接マナーは1月13日(水)の「ビジネスマナー講座(実践編)」を受講してください。

Uターン就職ガイダンス

対象：2011年3月卒業・修了予定者
日程：2009年12月2日(水) 16:10~17:10

*Uターン就職を成功させる、情報収集の仕方や行動の仕方についてガイダンスします。

OB・OGによる就職応援合宿

対象：2011年3月卒業・修了予定者
日時：2009年12月5日(土)~12月6日(日)
会場：湖西キャンパスセミナーハウス
費用：湖西キャンパスセミナーハウスの宿泊代・食事代のみ(3,500円ほどの予定)

*社会で活躍しておられる本学卒業生が皆さんの就職活動を応援したいと泊りがけで就職活動の仕方をじっくり教えてください。

就職直前ガイダンス&ビジネスマナー講座(実践編)

対象：2011年3月卒業・修了予定者
日時：2010年1月13日(水) 16:10~19:20
会場：講堂

*スーツ着用で参加してください。スーツを持っていない学生は私服でも結構です。

学校ボランティア

講義だけでは学べない生徒との関わり方や教育現場の様子を早いうちから学んでもらう機会として、本学では学校ボランティアに参加することを勧めています。

昨年度は35名の学生が、授業サポートや部活動補助、育成学級の補助など、学校ボランティアの活動に取り組みました。

昨年度参加した学生からは「勉強における生徒の理解度を知り、それに伴う教え方を身につける事

ができた」「生徒の表情をよく見て、気持ちを捉えることが大切だと分かった」「教育実習前には必ずボランティアに行き、実践力をつけておくべきだと思う」という声があげられ、教員になるに当たって大きく前進した様子が伺えました。

学校ボランティアに参加する場合は、事前に教職支援センターに必ず届け出てください。手続き等を説明・確認します。

教員採用試験説明会

今年度の採用試験の結果をふまえて、公立学校や私立学校の採用試験(日程・傾向・対策など)について説明します。現職教諭(本学OB生)による受験体験談などを予定しています。教職を希望する学生は必ず出席してください。

日時 2009年12月2日(水)
17:50~19:20
会場 5203教室(5号館)

教職支援講座 ②

教員として必要な能力

教員志望の皆さんは今、大学で教員免許を取得するためいろいろな教職の単位を取得していますね。大学では、教育学や心理学などの教育科学、国語や地歴といった専門諸科学、国語教育、社会科教育などの教科教育の3領域を学ばねばなりません。しかし、その3つの領域がバラバラな知識のままで、統合された情報となっていないことに問題があります。教員に求められる能力はそれらの知識を統合した資質能力なのです。コーディネート能力、プロデュース性、デイベロッパー性、同僚性がそれに当たると鷺山恭彦東京学芸大学学長は述べておられます。

教師には、人間性が不可欠であることに誰も異論はないと思います。実践的指導力が教員に求められていることは、前号(大谷大学広報09-夏号)で述べましたが、当面の必要にのみ目

を奪われてはなりません。教員は生徒のあらゆる面で大きな影響を与える存在です。人間として良い影響を与えられるように、人間性を磨いておきましょう。面接試験が重視されてきたのは、受験生の内面にある人間性を確認するためであることを忘れてはならないですね。本学での日常の学習を通して、統合された総合力として身につけておくことを決して忘れないでください。総合力として身に付けておく諸点を挙げておきます。

1. 使命感や責任感、教育的な愛情

何より人間を育てるのだという意識を持って生徒に接することが基本的な教員としての姿勢です。愛情豊かに生徒に話しかけ接することが何にもまして大切な資質です。

2. 社会性や対人関係能力の定着

学校だけでなく社会全体に精通している先生は、指導にブレがなく信頼感や安心感を生徒に与えることができます。情緒の安定した言動は、生徒の心に響くものです。

3. 幼児・児童・生徒理解

成長時期に合わせた関わりが求められます。多感で不安定な精神状態の児童・生徒たちに時宜に合った指導を行うためには、心理面での学習が欠かせません。

4. 教科等の指導力

社会に出て行く生徒が困ることのないよう教科指導をしっかりとっておくことは、教員がいちばん大切にしなければならないことです。教えることの何倍もの知識を保有しておくことは、教員の必須条件です。

(次号に続く)

教職アドバイザー 長谷川 浩三

GLOBAL SQUARE

GLOBAL SQUAREでは、学生の留学や外国語学習をサポートするために留学説明会や語学勉強会、留学生との交流イベントを実施しています。留学や語学学習に少しでも興味のある方は、気軽に立ち寄ってください。みなさんの来室をお待ちしています。

GLOBAL SQUAREホームページ：<http://web.otani.ac.jp/kouryu/index.html>

語学勉強会

英語、韓国・朝鮮語、中国語、ドイツ語、フランス語、サンスクリットの勉強会を実施しています。定員に余裕のある勉強会は途中参加も可能です。興味のある方はGLOBAL SQUAREへお問い合わせください。

留学相談

個別の留学相談に応じています。相談希望の方は、カウンターで申し込んでください。

留学相談の時間

10：30～17：00（月～金）

学生スタッフ募集

GLOBAL SQUAREイベントの企画・実施や留学生のサポートなどをする学生スタッフを募集しています。国際交流や留学生との交流に興味のある人は、ぜひ参加してください。

図書館

冬期休暇に伴う長期貸出期間について

冬期休暇に伴い、以下のとおり、貸出期間の延長をおこないます。どうぞご利用ください。ただし、指定図書は対象外となりますので、ご注意ください。

■ 手続期間

12月4日(金)～12月26日(土)

■ 返却日

1月13日(水) 厳守

■ 貸出冊数（通常貸出冊数と同じ）

文学部・短期大学部生・大学院生	10冊
非常勤講師・研修員・元教職員	
科目等履修生・聴講生・外国人留学研究生	5冊
教職員	20冊

* 変更になる場合は、掲示板・ホームページでお知らせします。

課外活動 イベント情報



課外活動の 活動予定



団体名	イベント名	日程	開催時間
	会場	備考	
サッカー部	2009年度第87回関西学生サッカーリーグ 後期	9月13日(日)~11月15日(日)	未定
	大谷大学湖西キャンパスグラウンド 他	http://www.eonet.ne.jp/~otani-univ/	
	2009年度順位決定戦・入替戦	11月22日(日)・28日(土)・ 12月6日(日)・13日(日)	未定
	未定	http://www.eonet.ne.jp/~otani-univ/	
吹奏楽団	第21回定期演奏会	12月5日(土)	開場17:30 開演18:00
	京都市右京ふれあい文化会館: 京都市右京区太秦安井西裏町11番地の6	入場無料	
落語研究会	大阪岸和田岡山寄席	11月28日(土)	
	岸和田市岡山	http://fine.ap.teacup.com/warainogakkou/	
	河原町笑学亭	11月下旬	開場18:30 開演19:00
	銅駝会館:京都市中京区河原町通夷川東入 グランクール河原町二条前	他大学合同	
	第二回ほうとく寄席	12月20日(日)	開場13:30 開演14:00
	鳳徳会館:京都市北区紫竹東高縄町1	他大学合同	
	第二十八回学外寄席	12月24日(休)	開場13:00 開演14:00
	北文化会館:京都市北区小山上総町49番地の2		
アメリカ民謡 研究部	第23回定期演奏会	12月26日(土)	13:00~17:00
	大谷大学 講堂		
	ルーキーコンサート	1月15日(金)	
	大谷大学 多目的ホール		

学生相談室から

自分を知る脱線 みつめてよいもの、わるいもの

『日本の空をみつめて』という本を気象予報の現場で活躍してきた人が出版した。ところがそのサブタイトルに「気象から文化や人生をみつめる」とある。文化現象は他者意識で眺めるものなのでさしかえないが、人生となると自己意識がかわってくるので、同列に扱うことは、じつはできない。

よく似たものとして「しっかり自分をみつめろ」と、あちこちでいわれているが、相談室にくる人たちは例外なく人一倍自分をみつめて悩んでいる。どうやらなんでもみつめさえすればよいとは限らないのではないか。自分や心、また生きる意味などを自分で問う場合には十分それに耐えうる論理性がなければならぬのに、自己意識はその要件を満たしていないばかりか、考えに置きかえるだけで、生きいきしたものを失ってしまうのである。



学生相談室の開室について

場 所	曜 日	学生相談員	開室時間
学生相談室 (博綜館1階)	月曜日	谷口 奈青 神田 敬子	10時30分～16時00分
	火曜日	久保 聡史	10時30分～16時00分
	水曜日	宇佐 晋一 (精神科校医)	13時00分～16時00分 (第2週・第4週)
		神田 敬子	10時30分～16時00分
	木曜日	讓 西賢 久保 聡史	10時30分～16時00分
	金曜日	久保 聡史	10時30分～16時00分

自己意識のなかでも大きな勢いで流れる感情は、感覚とともに身体的なものに密接に結びつき、自律神経系や内分泌系とのかかわりもあって、普通の論理に従わない世界である。そこは人間の知性の守備範囲外であり、いくら自分をみつめ、より深く知っても脱線するほかはないのである。

(うさ しんいち)

宇佐 晋一

9月・10月に行われたオープンキャンパスの様子



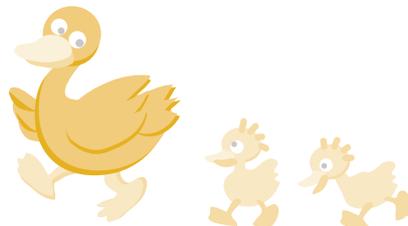
学生ボランティアによる受け付け



9月に行われたワークショップ



模擬授業の様子



谷大エリア散策

第37回 喫茶ロアールさん

北大路通南側、立命館小学校の向いにある喫茶店「ロアール」さんを訪ね、オーナーの堤美栄子さんご主人の堤普照さんにお話を伺いました。

一お店はいつ頃からですか

昭和51年の3月だったでしょうか。この場所で変わらず営業しています。今は私と息子が主に店をやり、主人も月の半分程は手伝ってくれています。



落ちついた店内

一お店のこだわり、自慢メニューは

サイフォンでいれるコーヒーです。サイフォンコーヒーは香りが良く癖がなく、後味がすっきりした美味しさです。開店当初からずっとサイフォンを使い、豆はミキヤさんという問屋さんの特製ブレンドです。お客さんはこのコーヒーのファンの方が多いのですが、最近は喫茶よりも食事の方が人気が増え、700円の日替りランチが人気で全体の8割くらいですね。メインになるおかげで毎日替えます。しいて言えば天ぷらが特に人気かな。加工品は使わず、すべて自家製です。下ごしらえからほとんど私一人の作業なので、結構しんどいですけどね。ボリュームの多さには自信がありますよ。本当は食事の後にゆっくりコーヒーを楽しんでいただきたいのですが、皆さんお忙しくて難しいようですね。



一どのようなお客さんが多いですか

昔はほとんどが学生さんでしたよ。大谷大学をはじめ、立命館、同志社、京産大な

ど、近隣の下宿生の方を中心に学生さんのたまり場になっていました。ファストフード店のない時代には学生さんが集まるといえば喫茶店だったのです。先輩後輩や他校の学生同士の交流の場でもありました。寮生や下宿生がほとんどなので、毎月10日とか20日とか仕送り日の後には人が増えましたね。他にはお向かいの立命館中学・高校の先生方によくおいでいただきました。現在はランチに来られる近くの会社員の方が多いです。実はうちの主人は開店当初からの常連客なんです。最も古い顧客と言えますね。



月1回、昼からは陶芸教室になることも

一大谷大学との交流はいかがでしたか

学内の洗心学寮のそばに裏門があった時代、学生さんが大勢行き来し、谷大の方によく利用していただきました。アルバイトもほとんど谷大生でした。ここを根城にしていたのは主に書道部、合唱部、写真部の方です。うちで卒論を書いたり、締切り間際に学校へ飛んでいったり、残り数枚の原稿用紙を抱えて研究室へ走って戻った人もいました。私たちが気軽に大学へ出入りし、知り合いの職員の方に頼んで図書館で本を閲覧させてもらったこともあります。裏門がなくなってから人通りも少なくなり、残念ながら谷大のお客さんも減ってしまいました。ただ学生時代から変わらずお越しいただいている一色先生さんとお付き合いのおかげで、今はお昼を谷大へ配達したりもしています。

他府県の方が多くのお付き合いが続くことは少ないですが、子供さんがまた京都の大学に入学されて一緒に訪ねてくださることがしばしばあり、とても嬉しく思います。最近はお客さんとのやりとりもその場限りで、20年～30年という長い付き合いなど望めるものではありませんね。

特に奇抜な服装や髪形をした子に限って、話すとき言葉遣いが丁寧で、よく聞けば仏教学科という人が多かったですね。お寺の子弟の方は将来跡を継ぐという無言の重圧を抱え、それに抗うように外見を変えたりすることで発散しながら、4年間の葛藤

のうちに自分なりに覚悟を決めて卒業していく、という姿を多く目にしてきました。お酒を飲んで羽目を外しても、「学生さんのことやから」という近所の方のあたたかい目がありました。街全体が学生さんに対して寛容で懐の深さがあったと思います。周りの大人たちが論し、学生も聞く耳を持っていました。ですから最近のようなひどい事件は起こりませんでした。

一それが変わってきたのはいつ頃からと聞かれますか

やはりファストフード店やコンビニが出来てからでしょう。市電が廃止され地下鉄が通ってから変わり始めたと思います。変化を感じたのは昭和60年代に入ってからですね。交通機関や商業施設の変化によって街のあり方が変わってくると、社会や人間の中身にまで影響が及んでくるのですね。

一喫茶店の移り変わりについて

昔は北大路通の鴨川から堀川通にかけて喫茶店が数十軒もありました。京都は全国で人口当り最も喫茶店が多い街と言われていました。それだけ喫茶店の需要が多く、コーヒーの価値も今とは違ってもっとも貴重なものでした。現在のようにはコーヒーメーカーを使って家庭で気軽に飲めるものではなく、喫茶店でコーヒーを飲むということに価値や意味があったのです。味についてうんちくを傾け議論するコーヒー通の人たちがいて、カウンターでいれていても緊張感がありました。今ではそんな風に味や雰囲気にかかわるお客さんはすっかり減ってしまいましたね。味の嗜好も濃いめから薄めに変わってきたと思います。

この先はもう少しのんびり、コーヒーにこだわって、いい意味で気ままにやっていたらと思いますが、なかなかそうはできそうにないですね。

一ありがとうございました



おいしいコーヒーは一杯360円。ごちそうさまでした。

研究室だより

総合研究室から

2009年11月から12月までの総合研究室の開室時間は以下のとおりです。
 宗教行事、学園祭等により開室日や開室時間が変則的になっていきますのでご注意ください。
 開室予定に変更のある場合は、ホームページ・学内掲示板でお知らせします。

◆学園祭期間中(11月13日～16日)について

11月13日(金) 10時開室、15時閉室
 11月14日(土)・16日(月) 10時開室、17時30分閉室

◆宗教行事について

11月27日(金)
 大学報恩講のため、13時開室、19時30分閉室
 11月28日(土) 宗祖御正忌のため閉室

◆特別開室日について

11月29日(日) 修士論文提出締切日直前のため開室
 10時開室、17時30分閉室

11月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

12月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

黒字 9時開室、19時30分閉室

黄字 10時開室、17時30分閉室

黒字 行事により時間変更

黒字 閉室日

*2010年は1月7日(木)より開室します。

*2010年1月12日(火)は卒業論文提出最終日のため、1月10日(日)・11日(月)は特別開室します。

幼児教育保育科研究室から

○幼児教育保育科第2学年の方は『卒業研究』を2部作成し、1部は教務課に、もう1部(コピー可)は幼児教育保育科研究室に提出してください。提出締切は11月30日(月)午後4時【厳守】です。なお、題目変更届及びワープロ書式外作成届は、11月23日(月・祝)午後5時までです。

○〈幼教フェスティバル2009〉を12月20日(日)に開催します。器楽合奏・

ダンス・劇など学生自身による手作りの発表会です。午前の部と午後の部の2部構成の予定です。詳細は後日幼児教育保育科専用掲示板等でご確認ください。

○第2学年が提出した『卒業研究』の発表会を1月13日(水)第5時限～第6時限(午後4時10分～7時20分)に開催します。授業の一環として開催することですので、第1・第2学

年とも全員出席してください。会場等、詳細は後日2号館1階の幼児教育保育科専用掲示板及び各ゼミ教員からお知らせします。

○現在、幼児教育保育科一般研究室の図書を借りている方は、期限を守って返却してください。なお後定期試験1週間前からは貸し出しができませんので、ご了承ください。

勉強会のお知らせ

総合研究室では、任期制助教による読書会・勉強会が開催されています。参加希望者は担当者まで。

1	会の名称	大学院受験向け・英語哲学文献を読む勉強会
2	参加対象	大学院受験のために英文読解力をつけたい哲学部の学部生
3	日程・時間	参加希望者と相談して決めます。
4	担当者名(専門分野)	西尾 浩二(哲学)
5	連絡先	総合研究室
6	趣旨・概要	大学院受験をめざしている哲学部の学部生を対象に、必要な英文読解力をつけることが、この勉強会のねらいです。哲学関係の英語文献をテキストとし、毎回予習してきていた範囲を、英文の読み方とテキストの内容の両面から細かくチェックしていきます。テキストの選択や開催日時などの詳細については、参加希望者と個別に相談して決めます。

学会だより

真宗学会

◎修士論文中間発表会

日 時：11月18日(水) 14時30分～
場 所：未定
発表者：未定

◎卒業研究中間発表会

日 時：12月上旬～中旬
場 所：未定
発表者：未定

◎真宗学会例会

日 時：12月2日(水)
14時30分～16時
場 所：尋源講堂
発表者：亀崎 真量
(博士後期課程第1学年)
藤原 智
(博士後期課程第3学年)
日 時：12月16日(水)
14時30分～16時
場 所：尋源講堂
発表者：後藤 智道
(博士後期課程第3学年)
花園 一実
(博士後期課程第3学年)
詳細が決まり次第お知らせします。

仏教学会

◎研究発表例会

日 時：11月26日(木) 16時10分～
場 所：響流館3階
マルチメディア演習室
発表者：林 哲照
(博士後期課程第3学年)
太田 路子
(博士後期課程第3学年)
宮本 浩尊 任期制助教

◎公開講演会

日 時：12月1日(火) 16時10分～
場 所：響流館3階
メディアホール
講 師：釈 徹宗 氏
(兵庫大学生涯福祉学部教授)
いずれも、詳細については、決定次第、掲示やブログ (<http://bukkyo.seesaa.net/>) にてお知らせします。

西洋哲学・倫理学会

◎西洋哲学・倫理学会秋季公開講演会

日 時 11月19日(木) 16時10分～
場 所 尋源講堂
講 師 古東 哲明 氏
(広島大学総合科学部教授)
講 題 「哲学的問いの発端
ーハイデガーの場合」

社会学会

◎公開講演会

日 時：12月11日(金) 13時～14時
場 所：響流館3階
メディアホール
講 師：飯田 剛史 教授
講 題：未定

教育学会

◎教育学会秋季公開講演会

11月～12月上旬に開催予定
詳細が決まり次第お知らせします。

哲学会

◎秋季研究会(『哲学論集』55号合評会)

11月下旬に開催予定
詳細が決まり次第お知らせします。

中国文学会

◎中国文学会学術公開講演会

日 時：12月18日(金)
16時10分～17時40分
場 所：尋源講堂
講 師：愛甲 弘志 氏
(京都女子大学文学部教授)
講 題：「中晩唐文學に関する
諸問題について」

出版物紹介

◎『四十八願概説

—法蔵菩薩の願いに聞く—

一楽真 著
文栄堂 刊

(2009.6) 262頁



◎『本願所寺院組織の確立と信仰文化の形成・伝播に関する歴史民俗学的研究

大谷大学真宗総合研究所平成21年度
一般研究〔豊島班〕研究成果報告書

豊島修 編集

豊島修・山本殖生・祐川恵理・
鈴木善幸・大谷めぐみ・石黒智
教・加藤基樹・高野弥和子・平
野寿則・木場明志・根井浄・鈴
木昭英 分担執筆

大谷大学真宗総合研究所 刊

(2009.3) 150頁

◎『京大心理臨床シリーズ7

「発達障害」と心理臨床

伊藤良子・大山泰宏・角野善宏 編
谷口奈青理 分担執筆

創元社 刊

(2009.3) 464頁

◎『An Illustrated Eco-history of the Mekong River Basin』

Tomoya Akimichi(秋道智彌) 編著
高井康弘 分担執筆

White Lotus (Bangkok, Thailand) 刊

(2009) 179頁

◎『タイ事典』

日本タイ学会 編

高井康弘 分担執筆

めこん 刊

(2009.9) 556頁

「大谷大学広報09-冬」発行のお知らせ

「大谷大学広報09-冬」の発行を来年1月に予定しています。さまざまなエッセイや連絡事項などを掲載する予定です。ぜひお読みください。広報は次の場所に置いてありますので、ご自由にお取りください。

①博綜館ピロティエ（博綜館入口横） ②至誠館（学生支援課カウンター前） ③響流館（図書館、教育研究支援課カウンター）

④学内食堂 ⑤各研究室 ⑥1号館1階 ⑦2号館1階 ⑧4号館・5号館1階

また、大谷大学ホームページから、バックナンバーを含め広報の閲覧が可能です。

大谷中学・高等学校からのお知らせ

1. 来年度から大谷中学校のバタビアコースは、以下のように変わります。

マスターJrクラス(1クラス)とコアJrクラス(2クラス)とに分かれてスタートします。

マスターJrクラスとは、中学3年間で高校1年生分まで授業を先取りするクラスです。高校のマスタークラスに進学後は、高校2年終了時点で高校3年生分まで終了させ、高校3年生で国公立大学受験対策演習を中心として授業展開する6ヵ年一貫教育を行います。

コアJrクラスとは、最初の2年間で基礎学力を徹底的に鍛え、次の3年間で習熟度別の授業を中心として得意科目を伸ばすクラスです。高校3年の一学期で高校3年分を終了させ、二学期から難関私立大学合格を目指した演習を行います。

2. 来年度の中学入試・高校入試についてのお知らせ〈募集人員 中学105名、高校280名〉

中学入試について

ア、出願期間 — 2010年1月4日(月)～1月8日(金) 郵送出願のみ(期日内必着)
C入試のみ、1月18日(月)19日(火)の両日に窓口出願もできます。

イ、試験日

日程	試験区分	試験日	試験内容
前期	S入試	1月16日(土)	作文・面接と小学5・6年生の学業報告書による総合審査
	A入試		3科目受験型 国語・算数(各50分・各150点)と理科(35分100点)合計400点
			4科目受験型 国語・算数(各50分・各150点)と理科と社会(各35分・各100点)合計500点
B入試	1月17日(日)	上のA入試とまったく同じです。	
後期	C入試	1月20日(水)	国語・算数(各50分・各150点)合計300点

ウ、合格発表日 — S・A・B入試は、1月19日(火)午前9時30分 本校内掲示及びHP公表
C入試は1月21日(木)午前9時30分 本校内掲示及びHP公表

エ、受験料 — 20,000円(単願者) SとB、AとB、AとC、BとCの両願者は同時出願に限り20,000円で受験可能です。

オ、その他 — AとBの入試両願者はA入試で3科目型を受験した場合は、B入試でも3科目型で受験となります。同じくA入試で4科目型を受験した場合は4科目受験となります。

高校入試について

ア、出願期間 — 2010年1月26日(火)～1月29日(金)
午前9時30分～午後4時まで
窓口出願・郵送出願(消印有効)いずれも可能

イ、入試日程

日程	試験日	試験科目	受験対象者
前期	2月10日(水)	国語・社会・数学・理科・英語 各50分 各100点 合計500点	専願 ※併願
後期	2月13日(土)	国語・数学・英語 各50分 各100点 合計300点	※併願

*併願者は、10日か13日のいずれか1日を選んで受験してください。

ウ、合格発表 — 2010年2月14日(日) 午後6時30分(個人宛郵送及びHPでも発表)

エ、専願合格者面接 — 2月27日(土)

オ、受験料 — 20,000円

3. 大谷高等学校卒業のみなさんへ

今年の1月に行われた本校での成人式には多くの卒業生が参加し、タイムカプセルを埋めたり記念植樹をし、また旧担任と会ったりして大変有意義な1日でした。と卒業生たちは語ってくれました。そのことを伝え聞いた次年度の卒業生たちが、来年度も大谷高校で成人式を行おうではないかと同学年生徒に呼びかけています。その発起人として大谷大学の4人の学生(高橋宏和君、中路彩さん、岩本駿君、高田有美さん)たちが中心となって成人式への参加を募っています。大谷大学に在学中の同期生のみなさんも是非とも参加してください。旧担任も心待ちにしています。

九州大谷短期大学からのお知らせ

◎個別面談型入試「コミュニケーション入試」エントリー受付中

エントリー期間：2009年6月1日(月)～2010年3月30日(火)

※登録票(エントリーシート)は、ホームページからもダウンロードできます。

■学科・専攻および入学定員[全学科 男女共学]

- 仏教学科 ————— 10名
- 表現学科 ————— 50名
- 幼児教育学科 ——— 100名
- 福祉学科 ————— 35名
- 専攻科福祉専攻 ——— 30名

<入試に関するお問い合わせ>

九州大谷短期大学入学センター
tel. 0942-53-9900 fax. 0942-53-9901
e-mail. nyugaku-c@kyushuotani.ac.jp

家路を急ぐ夜道を怪しい人影が付いてくる。もし暴漢だったらどうしよう。早めに110番をしようか。いや、この人も自分と同じ家路を急ぐ人かもしれない。間違っていたら厄介だ…なんて思っていて本当に襲われたらどうする？

私たちは日ごろある情報を得て、「本当のところはどうか」よくわからない事態にしばしば直面する。「健康診断で病気の疑いが出たが実際はどうか」とか、「ゴルフプレイ中に雷注意報が出たが、本当に落雷はあるのか」など。

ここで私たちは2種類の過ちを犯す可能性を持つ。そして一方の過ちを最小限にしようとする、他方の過ちは不可避になるという関係にある。「要精密検査」→「異常なし」とか、「雷注意

報」→「落雷なし」は最初の警告通りにならなかった例である。わざわざ精密検査を受けたり、ゴルフを中断する被害を受けはするが、だからと言って最初から警告を発しなかった結果、本当の病気を見逃したり落雷を受けるといったもう一方の過ちによる被害は甚大なので、警告に従って精密検査を受けたり避難することが多い。それは警告が事実通りにならなかった過ちを許容して、事実だった際の被害の回避を最優先するからである。

それでは犯罪の場合はどうだろう。罪を犯した疑いのある人が出てきた場合、「犯罪者を野放しにして被害が拡大しては困る」「犯人を逮捕して社会不安の拡がりを防げ」「何より被害者がかわ

いそう」。そんな声が聞こえてきそうである。

だが被疑者が濡れ衣である可能性も考えてみてほしい。被疑者は逮捕されて何日間も身柄を拘留された後に、被告人として裁判に出廷しなくてはならない。万一誤判で有罪判決が確定すれば、真犯人に代わってやってもいない刑に服する羽目になる。そのことによって自由な時間を奪われるばかりか、仕事や家庭を失うことすらある。それが死刑判決だったら取り返しがつかない。

私たちは「真犯人を取り逃がすリスク」と「無実の人間を誤って罰するリスク」のいずれの回避を優先すべきだろうか。刑事司法には、「たとえ真犯人

話題の広場 SQUARE

起こってはならないはずの 冤罪事件

脇中 洋



絵 内山智廣

を取り逃がすことになっても、無辜の者を罰することは避けよう」という考え方がある。容疑者が逮捕されると、まるで犯人が捕まったかのように報道されることがあるが、まだ疑いをかけられている段階。起訴されて裁判で被告人になっても、有罪判決を受けない限り「疑いがある」としか言えない。このことを「疑わしきは罰せず」（無罪推定）と言い、刑事司法の根幹をなす理念である。

なぜ犯人の疑いがある怪しい人をそんなに擁護するのか。人が人を裁く際には、間違いを犯す可能性があることを認識しているからである。神様ならぬ人間にとって、事実と言うのはそれほどよくわからないからだ。ところが実際の刑事裁判の無罪率はわずか0.1%。1000件のうち999件は有罪判決が下される。これは刑事実務においては無罪推

定ではなく、怪しいという段階で犯人に違いないと思いきむ有罪推定で成り立っている危険性を示唆している。疑わしいというだけで被疑者・被告人は「どうせやっているんだろう」と取調べられ、有罪判決が下される可能性がきわめて高いということである。もし健康診断の結果、病気の疑いがあるというだけで手術されたり、落雷の恐れがあるだけで外出禁止令が出されることを考えると、当事者にとってあり得ない事態なのである。

実際に今年6月には、足利事件で無期懲役の有罪判決が確定して服役中の菅家利和さんの再審請求が認められ、彼は無実である可能性がきわめて高くなった。ということは警察、検察、地裁、高裁、最高裁の判断がいずれも過ちだったということである。なぜそのような過ちを犯したのか。どうしたら

防げるのか。この検証が欠かせない。

日本の刑事司法に対して、2008年10月国連自由権規約委員会は日本政府の報告書を審査した上で、「警察署に長期間拘束する代用監獄は、国際的な人権基準に違反している」「誰が有罪かを決めるのは裁判所であって、警察の取調べとはどうあるべきかを誤解している」と、刑の全面的改革を勧告している。取調べにおいて被疑者が犯人であることを前提に反省悔悟を求めるのではなく、取調べを可視化して「やっていないかもしれない」という可能性も念頭に置いて供述や証言を聴くということが大前提であるし、裁判所の事実思定、マスコミ報道、そして私たちも被疑者・被告人への中立的な構えを保つようでありたい。

（わきなか ひろし
教授 発達心理学・法心理学）